



大タラを奉納

立春の2月4日、江戸時代から続くといわれる「掛魚まつり」が行われました。金浦神楽の音とともに、金浦漁港から金浦山神社まで、大タラを担いだ奉納行列の一歩が練り歩きました。

=関連記事は6ページ=

主な内容

- 白瀬中尉をしのぶ集い………P 2～3
- 高齢者声かけ見守り巡回事業…P 4～5
- まちの話題……………P 6～7
- 生活環境情報……………P 9

vol.130
2011

<http://www.city.nikaho.akita.jp>

広報 Nikaho City

にかほ

白瀬南極探検隊100周年記念特集 その拾



開南丸とウェリントン市街

白瀬隊がニュージーランドの島影を確認したのは、一等航海士・丹野善作の日記によるところ、明治44年（1911年）1月31日、南緯37度07分東経166度16分の位置でした。「島が見えた」の声に隊員達は双眼鏡で確認しようと甲板に集まります。ニュージーランドは北島と南島の2つの主要な島と小さな島々からなり、北西にはオーストラリア大陸、南の南極大陸とは約260km離れています。8世紀ころから先住民マオリ人が住み始め、1642年オランダ人が発見。1769年イギリスのジェームズ・クックが島全体を調査し、同国の植民地化が進みました。1907年、

白瀬隊がニュージーランドには日本人の領事官はおらず、弁護士で日本名譽領事のT・ヤング氏と交渉。日本語が通じないため、清国（中国）領事との筆談も交えました。寄港の目的は飲料水、石炭、肉、生鮮野菜等を補給すること、日本へ電報や手紙を送ること、日本の送金を受け取ることなどでした。郵便の送信や買い物だけでも大変な時間がかかったといいます。水路誌に牛肉がニュージーランドの特産物であり、安く買い求めるために交渉したつもりが「生きたメス牛を一頭買いたい」と誤解され、現地の新聞に掲載されます。

平成9年（1997）、ウェリントン市、金浦町、ウェリントン海事博物館、白瀬記念館の合同プロジェクトで「白瀬隊寄港記念銘板」が、ウェリントン港を臨む公園に設置されています。今年は白瀬隊のニュージーランド寄港100周年。現地では銘板の前で記念式典が開催される予定です。
※白瀬記念館でもパネル展開催中

白瀬日本南極探検隊
100周年記念事業推進事務局
☎ 38-4670
白瀬南極探検隊記念館
☎ 38-3765

時間が延期して出港しました。ヤング氏から皆で歓送したいと相談があり、出発を数時間延期して出港しました。4階造りの汽船やヨットに乗った人々が歓声を上げて見送り、イギリスの軍艦からは「貴隊の無事成功を祈る」と信号が送られるなど、盛大な見送りだつたといいます。

▼開南丸に乗船した
ウェリントンの婦人たちと隊員たち



未知に挑む

4日間の新西蘭寄港

（ニュージーランド）

イギリス連邦内の自治領となり事実上独立しました。

白瀬隊は当時イギリスで発行された、海上の気象や針路法、港湾、沿岸の状況やその土地の特産物など海図を補う「水路誌」を見ながらウェリントン入港を試みます。2月3日夜半からの暴風雨により、入港できたのは、同8午後1時でした。英語が堪能な隊員がいなかつたため、外国航路の経験があつた丹野が入港検査に対応し、どこから来たか、病人や船医の有無、乗組員数などの質問に答えていました。

ニュージーランドには日本人の領事官はおらず、弁護士で日本名譽領事のT・ヤング氏と交渉。日本語が通じないため、清国（中国）領事との筆談も交えました。寄港の目的は飲料水、石炭、肉、生鮮野菜等を補給すること、日本へ電報や手紙を送ること、日本の送金を受け取ることなどでした。

白瀬隊がニュージーランドで歓送され、現地の新聞に掲載されます。

企画・編集／にかほ市広報委員会 発行／にかほ市役所
〒018-0192 秋田県にかほ市象潟町字浜ノ田1番地
☎ 0184-43-3200（代表）☎ 0184-43-7510（直通）
ホームページアドレス <http://www.city.nikaho.akita.jp> 電子メールアドレス info@city.nikaho.lg.jp



2011 热戦再来 北東北総体
北の空 高い気分の可能性
にかほ市は平成23年度インターハイサッカー競技の開催地です。

広報にかほは、にかほ市ホームページでもご覧いただけます